

「第9回 河川財団名古屋研究発表会」一報告

河川財団名古屋研究発表会は、平成27年11月17日に名古屋駅前の「ウインクあいち」にて開催いたしました。参加者は、官学民の河川技術者161名で超満員の中、活発な意見交換が交わされました。

名古屋研究発表会では、平山河川調査官の挨拶に始まり、群馬大学、清水 義彦教授に「植生が進む砂州河道の地形と植生の管理手法に関する水理研究」と題してご講演いただきました。つづいて、河川財団の研究発表として、「堤防植生管理手法の提案」「河道の侵食特性について」「河道内樹林の伐採計画について」など中部の河川の課題に対するテーマで発表を行いました。河川基金助成事業成果発表としては、岐阜大学の神谷浩二准教授による「河川堤防の弱体化に起因する間隙空気の噴発現象の抑制工」を発表しました。

今後も、安全で災害に強い川・豊かで美しい川を目指し、河川に関する調査研究の成果を発表する機会として、名古屋研究発表会を開催し、河川施策や技術の普及に努めていきます。



平山河川調査官の挨拶



清水教授の講演の状況

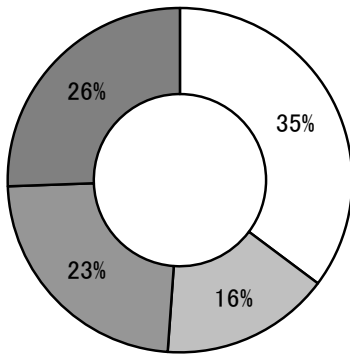


意見交換の状況



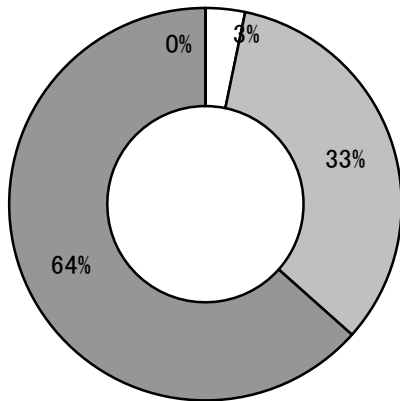
主なアンケート結果

Q5 今回の研究発表・成果発表で、興味をもたれた項目はどれですか？



- a 「植物成長調整剤を用いた堤防植生管理手法の提案」(62)
- b 「泥岩・沖積粘性土層の露出河道の侵食特性について」(28)
- c 「管理面の機能確保を目的とした河道内樹木の伐採計画について」(41)
- d 「河川堤防の弱体化に起因する間隙空気の噴発現象の抑制工」(45)

Q9 来年も河川財団研究発表会を開催する場合、参加したいと思いますか？



- a 東京で参加したい (4)
- b 中部地方で参加したい (41)
- c 名古屋で参加したい (78)
- d 参加したいと思わない (0)